

200法人を実現させる！！ ～“設立支援班”の取組み（設立活動戦略会議（8月27, 30日））～

県法人協設立支援班（高木班長）と県（指導所、農林、畜産事務所など）担当者が出席した、設立活動戦略会議が8月27, 30日に農業技術センターにおいて開催されました。

この会議は、少しでも多くの設立を促すため、日頃推進地区へ支援を行っている県機関とアドバイザーの間で情報を共有し具体的な手段等について検討を行うことを目的として開催されたものです。

班長の高木さんは「確実に200法人達成をやり抜こう！」と開会であいさつをされました。

8月30日に出席した設立支援班の向山さん（（農）ファームイースト造賀）は、「JA、市町が集落へ入り啓発活動を行う仕組み（組織体制）づくりが大切だと思う」とインタビューに答えられました。

【事務局から集落法人の皆さんへ】

いま、農業に持続性を持たせる集落法人化を急がなければ、小規模で高齢化が顕著な広島県の農村が活力を失っていくことは間違いありません。皆さんの経験談や励ましが法人化を検討している地区の活力となり大きなキッカケとなります。集落法人による集落法人のための集落法人づくりにご協力ください。



会議中の設立支援班員の皆さん

キャベツで儲ける ～キャベツ周年供給への取組み～

県域キャベツ推進会議（構成員:JA, 全農ひろしま, 市町, 県, 県法人協, 設立:平成21年5月）では、県内全域の担い手を中心となって、「実需者ニーズ」に対応したキャベツを周年供給し、キャベツを「広島県の顔」に、あるいは「経営の主力品目」に育てることに取組んでいます。

今年度から全農ひろしまでは、「実需者ニーズ = 加工業務用仕向け」に対応して、計画出荷が可能な法人を対象に、事前に設定した契約単価で、出荷量の30%を一定期間流通させる取組みを始めました。

また、県域キャベツ推進会議を構成する関係機関が連携し、低コスト・省力化栽培、品種試験、作期拡大試験などの展示ほ場を設置し、県内全域での技術統一を視野に、新技術導入に向けた取組みも行っていきます。

計画出荷として安定生産・安定出荷が可能な生産者（集落法人など）は、新技術も組合せながら、市況に左右されにくい収益確保が可能となっています。県域キャベツ推進会議では、キャベツ導入を積極的に支援していますので、キャベツで経営強化を図りましょう！



春作の出来を確認する（農）せんごくの里 藤井組合長

支部ピックアップ

芸北

東広島

尾三

福山

三次

庄原

その他

イノシシから農地を守ろう研修会 ～東広島支部～

8月20日、東広島市豊栄町で「イノシシから農地を守ろう研修会（和牛放牧現地研修会）」をいんぎん農農業技術振興センター普及部長で現在、（農）ファーム法養寺代表理事の上田栄一氏を講師に迎えて、農業関係者及び指導機関等約50名が参加して開催されました。

この研修会は、（農）ファーム西能良（栗原信明代表理事）の放牧地（3牧区1.2ha）のうち1牧区（0.4ha）で開催し、講師から放牧のアドバイスを受けた後に参加者と意見交換を行いました。参加者は、放牧にかかる経費や放牧の獣害への効果等について栗原代表理事へ質問を行う等、放牧へ関心を寄せていました。



参加者の質問に答える栗原代表理事



和牛放牧を熱心に見学する参加者

「節税」より「節約」 ～庄原支部～

8月20日に広島県庄原庁舎にて、庄原地域集落法人連絡協議会夏季研修会が開催されました。午後からは税務研修として、農業の税に関して全国トップクラスの渡辺税理士（大阪府）による、農事組合法人の会計と税務の留意点の講演がありました。

知ってるようで知らない、役員給与（報酬）の損金不参入の原則と例外、消費税と従事分量配当の関係、発生主義に基づいた仕分け、事業税の非課税範囲など、特に農事組合法人という特殊な組織での留意点を明瞭にお話されました。



熱く語る渡辺税理士

渡辺税理士は、最後に、

- ① 節税を意識するより節約を心がけること、無駄使いはキャッシュフロー（資金繰り）を悪くさせる。
 - ② 決算書は税務申告のためだけに使わないでほしい。経営の反省、計画の検討、内部留保し投資するための“材料”として非常に貴重なデータであり、経営発展するために有効に活用してほしい。
- と参加者にメッセージを伝えていました。

情報の羅針盤

★営業力が農業経営を変える！？

8月7日RCC「Eタウン」で（株）元気丸（尾道市）が取り上げられました。建設業からの農業参入した集落法人です。ジャンボニンニクを栽培し、「惚れタレ」（焼肉のタレ）を始めとして新商品の開発と売込みを活発に行われています。この番組のコメンテーターの神足さんは、「これからの農業はWorkからTaskそしてBusinessへと向かうべき」とおっしゃっていました。「Work≒労働、Task≒仕事、Business≒商売」という英語の表現を借りて農業の発展の必要性を提起されていました。（株）元気丸の社長が持つ営業力は、これからの集落法人に求められる重要な要素だと感じました。



集落法人で 楽しい農業

豊かな 村で楽しく 地域の未来